

# 平安書道会事務局だより

平成二十八年夏号

今年の公募展は、六月の最初の週に開かれました。出品者の方々は例年になく時期の早さにとまどいもあったようですが、一方、暑くなる前に作品が出来てよかったなどの声もありました。

## 《総会》

一月三十一日、京都駅前タワーホテルにて平安書道会総会が開かれました。総会終了後の記念講演では、昨年に引き続き講師に阪田美枝先生をおまねきし、日本の「和紙」についてお話をいただきました。講演では、貴重な紙漉き唄の録音を聴きながら、阪田講師の説明をしていただきました。日本の紙漉き唄は、つらい紙漉き作業を少しでも紛らわせるために、唄われたものです。作品作りに、平気で何十枚も書きつぶしてしまふ和紙ですが、紙漉きの一連の作業が、かくも苦しい作業であったとは、紙漉き唄の肉声を聴くまで、全く想像してなかったので驚きました。

講演後、続いて祝賀会が開かれました。参加になれた西村格外前理事長の後任として、上田雅堂新理事長の挨拶がありました。



## 《第九十六回 公募展》

八月の終わりだった昨年とは打って変わり、今年は開催時期がぐっと早まりました。六月二日から五日の四日間、京都市美術館二階で開催されました。作品のジャンルも、最近は篆書・隸書・木簡・布帛などが増えてきたような感じがします。昨年亡くなった外岡先生の作品も展示されました。

役員の方の先生作品



第九十六回平安書道会公募展 特別賞受賞者		平安 特別大賞	小野 雅昭
平安 大賞	北本 菊江	平安 準大賞	西田 北峰
神田 喜一郎賞	東志 小美	綾村 坦園賞	堀口 秀子
吉澤 義則賞	山口 典子	京都府知事賞	西田 治美
京都府市長賞	田川 真衣	田川 真衣	澤守 愛
京都府教育委員会賞	一居 万葉	清水 ひな	大杉 知陽
京都市教育委員会賞	宮浦 太地	小林 実都	深堀 佳鈴
京都商工会議所賞	豊田 慧々	山口 莉々	深堀 佳音
平安書道会会長賞	高塚 杏風	中田 陽奈	通場 彩紗
朝日新聞社賞	廣瀬 夢華	宮西 紅華	森 溪山
毎日新聞社賞	岡山 彩季	島 喜久	北村 恵理
読売新聞社賞	松下 せいしゅ	樋口 のあ	山本 凛奈
京都ユネスコ会長賞	西邑 龍哉	番場 蓮	中 りんか
京都銀行頭取賞	伊島 久令芭	山根 彩	安井 愛菜
京都新聞開発欄賞	中村 真菜	舟津 志穂	安田 いつき
芸術新聞社賞	坂本 りん花	原城 達仁	宮田 奏乃愛
墨 運 堂 賞	古林 なつみ	花岡 透弥	室 雄大
吳 竹 賞	板井 ゆうた	中 ふうな	福井 美帆
	大山 樹里		



京都ユネスコ会長賞を受賞した樋口のおさんは小学五年生。作品の「夢の実現」という言葉は自分で選びました。バランスよく書くのが難しかったけれど美しくまとまりました。細見玲汀先生のお稽古はとても楽しく、硬筆から毛筆までがんばっています。

《奨励賞の神田賞、吉澤賞、綾村賞とは？》

平安書道会の長い歴史の中で、会長を務めた三人のお名前を冠した賞です。各先生型の略歴を紹介します。

吉澤義則（よしざわよしのり）

昭和二十一年 第二次世界大戦で活動を休止していた平安書道会は、戦後まもなく、文学博士の吉澤義則を第三代会長に迎えて活動を再開し、翌年からは公募展も復活しました。日本の書道史、特に万葉仮名の研究者であると同時に、仮名の大家でもあった吉澤会長のもとで、平安書道会は三十周年記念を迎えました。

吉澤会長が仮名の大家であったことから「吉澤賞」は優秀な仮名作品に与えられることが多いようです。



【第三十六回 聚英展】

「平安書道会」理事・審査員等が趣向を凝らして斬新な作品を毎回披露します。

十一月十六日（水）

～二十日（日）

京都文化博物館にて  
開催。

神田喜一郎（かんだきいちろう）

昭和三十年には、第四代会長に、東洋学者で京都国立博物館館長の神田喜一郎が就任します。中国の文化史、書道史関係の著作も多く、岩波書店の「中国書道史」などがあります。神田会長時には会誌「平安書道会会報」が創刊され、清書コンクールなどが併設開催されました。



綾村坦園（あやむらたんえん）

昭和四十三年 神田会長が名誉会長となり、第五代会長に綾村坦園が就きました。昭和四十五年には五十周年を迎え、記念図録を出版しました。聚英展もはじまります。以後亡くなる平成十一年までの長い間、会長として会の発展のためにつくされました。



（お願い）

平安書道会は平成三十二年に百周年を迎えます。会では、会の歴史に関連した資料を集めています。埋もれている昔の記憶や、先達の書などご紹介ください。百周年記念の冊子に多くの資料を残して、新たな船出の権となるようにしたいとおもっています。